

二〇一三年五月二四日

目つぶしの日に白銀の蜘蛛の糸
鳥語降る青葉の森を朝散歩
若葉風千本鳥居駆け抜けて
残照の端山涼しき月あぐる
ゆくりなく余花に出会ひし峠道

三 刀
よし子
満 天
雅 流
宏 虎

蔓薔薇のいま佳境なるレンガ塀
海光の屈きし丘や花蜜柑
老いどちら口は達者や溝浚へ
新樹光弦きらきりと斜張橋
磨崖仏ほんのり笑ふ木下闇

せいじ
あさこ
あさこ
菜 々
なつき

二〇一三年五月二三日

新樹光届くお堂の御仏に
わんぱくら秘密基地とす木下闇

はく子
せいじ

二〇一三年五月二二日

夏草やインクラインの鉄路錆び
白鷺の峙へ急ぐ茜空
万緑や三川ここに落ちあへる
回廊に古都の万緑展けけり

はく子
さつき
きづな
満 天

二〇一三年五月一八日

海の底めくカルストの野に遊ぶ
カルストの起伏野を這ふ夏の霧
峠茶屋ラムネの旗の翻へり
荒神の森に老鷺鳴き渡る
麦秋の畦に並びて写生の子
万緑の山に飴す法螺の音
薫風の土間吹き抜ける庵かな

よし女
三 刀
さつき
ぽんこ
たえこ
さつき
三 刀

二〇一三年五月二二日

先頭の修験の幟高々と
万緑やエレベーターはシースルー

さつき
はく子

二〇一三年五月二〇日

街川の流れに並ぶ鯉涼し

さつき

毎日句会みのる選・二〇一三年五月二六日